

雨天時対策

これからの雨天時浸入水対策・浸水対策を見据えて

雨天時浸入水対策計画

● 効率的かつ効果的な「雨天時浸入水対策計画」策定のご提案

分流式下水道を採用している地方公共団体において、施設の老朽化の進行や地震等の被災、高強度降雨の増加等に伴い、降雨時に下水の流量が増加し、污水管等からの溢水や宅内への逆流等、雨天時浸入水に起因する事象が発生しています。これらを踏まえて、国土交通省は2020年(令和2年)1月に「雨天時浸入水対策ガイドライン(案)」を策定しています。

「雨天時浸入水対策ガイドライン(案)」に基づき策定する雨天時浸入水対策計画では、計画降雨以下の降雨における雨天時浸入水に起因する事象の発生を防止することを目的とした、段階的な対策計画を策定します。この際には、ストックマネジメント計画や浸水対策等の他事業との連携を踏まえた、効率的かつ効果的な事業のロードマップを作成します。

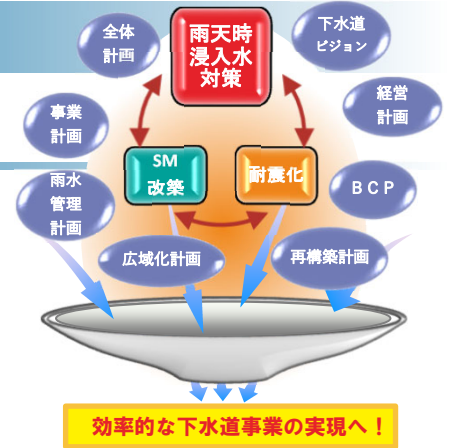


図1 雨天時浸入水対策と関連事業との連携(1/2)

● 「雨天時浸入水対策ガイドライン(案)」に基づく対策の進め方

①雨天時浸入水対策計画の策定

雨天時浸入水対策計画の策定により、発生源対策、施設対策、運転管理を組合せた効率的かつ効果的な対策を実施します。

②絞込調査の実施

低コストでメンテナンスが容易な電気伝導度計及び温度計による絞込調査を提案します。

③発生源対策の実施

各種調査によって浸入箇所を絞り込んだ地区に対して適切な対策を実施すると同時に、他事業(ストックマネジメント計画等)との連携による相乗効果を踏まえた対策を提案します。

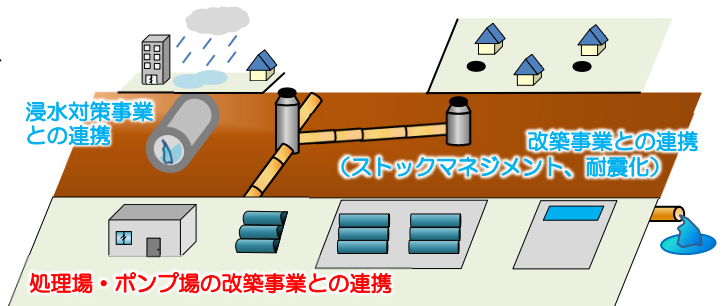


図2 雨天時浸入水対策と関連事業との連携(2/2)

● 流域下水道における雨天時浸入水対策

流域下水道においては、雨天時浸入水が特に深刻な問題となっています。対策に当たっては、流域下水道内における雨天時浸入水の発生箇所について認識共有や流域関連公共下水道間での合意形成が必要となるからです。流域下水道が主体となって雨天時浸入水対策計画を策定し、流域関連公共下水道と連携して対策を実施することが問題解決の鍵となります。

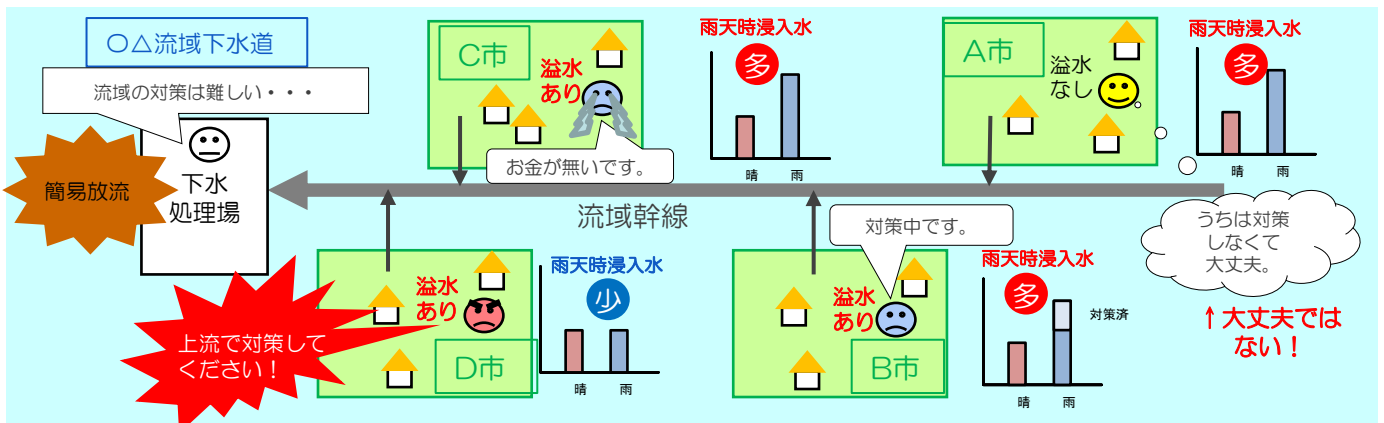


図3 流域下水道に係る雨天時浸入水の課題

